

経験者採用試験 論文試験課題

1 一般事務職A、一般事務職B、警察事務職A、警察事務職B、教育事務職A、教育事務職B

団塊の世代が全員 2025 年に 75 歳以上の後期高齢者となる、いわゆる 2025 年問題について、兵庫県においても、2015 年度の高齢者数約 150 万人（うち後期高齢者約 71 万人）が、2025 年度には、高齢者数約 160 万人（うち後期高齢者約 97 万人）となり、後期高齢者の著しい増加が見込まれています。

そこで、後期高齢者が増加することによってもたらされる課題を述べるとともに、その課題を解決するために、今後、兵庫県としてどのような取組が必要か、あなたの考えを述べなさい。

2 農学職A

(1) 本県の農業産出額（平成 29 年）は 1,634 億円で、近畿地方の 32%を占め、京阪神都市圏の重要な地位にあります。一方で、本県は第 2 種兼業農家の割合が高く、一戸あたりの経営耕地面積は全国の半分以下となっています。将来にわたって本県農業を発展させていくためには、農業経営体の経営力を強化していく必要があります。

そこで、農業経営体の経営力強化に向けた課題を挙げたうえで、これを解決するため県として実施する具体的な方策について、あなたの考えを述べなさい。

(2) 本県は、畜産産出額では近畿の約 6 割を占める畜産業の盛んな県ですが、その一方で県内の畜産農家の高齢化や戸数が減少傾向にあります。こうした状況の中、規模拡大や生産性向上のための ICT や省力化・低コスト技術の活用、地域での担い手支援体制の強化が必要となっています。

そこで、肉用牛、酪農のどちらかを選択し、担い手の生産力・経営力を強化するための課題を挙げたうえで、解決するための具体的な方策について、あなたの考え方を述べなさい。

（（1）、（2）の課題から 1 題を選択）

3 林学職 A

- (1) 森林を、木材生産を第一に考える「生産林」と、生物多様性や水源涵養などの公益的機能の発揮を第一に考える「環境林」に区分した場合、現在の兵庫県（もしくは日本）の森林資源の現況や林業の動向を踏まえたうえで、それぞれの①目標林型と管理・施業の特色、②「生産林」と「環境林」の両者が調和した豊かな森林に導くための方策について、あなたの考えを述べなさい。
- (2) 近年全国各地で記録的豪雨や地震による山地災害が多発し、尊い命が奪われています。本県では山地災害の未然防止を図るため、治山事業により治山ダム等の整備を推進していますが、山地災害危険地区は平成 30（2018）年度末現在約 9 千箇所あり、そのうち治山事業着手済箇所は約 3 千箇所で、依然として未着手箇所が多く残り、全ての山地災害危険地区において事業着手するには、莫大な予算と相当の年数を要します。
- そこで治山ダム等のハード対策を効率的に進めるための方策と、それを補うハザードマップ作り等のソフト対策について、あなたの考えを述べなさい。

（（1）、（2）の課題から 1 題を選択）

経験者採用試験 論文試験課題

4 総合土木職 A、総合土木職 B

- (1) 近年、集中豪雨や高潮による浸水、土石流や急傾斜地崩壊、地震、津波など全国で自然災害が頻発しており、兵庫県においてもその対策が急務となっています。そこで、これらの災害の中から一つを選び、災害発生メカニズム・特徴と、これを踏まえた防災・減災対策についてハード・ソフト両面の観点から述べなさい。
- (2) 農業・農村には、農業生産の場としての役割の他に様々な多面的機能があることが知られています。そこで、農業・農村の持つ多面的機能を3つ挙げ、それぞれの機能を維持・増進するための方策について、あなた自身の考えを述べなさい。
- (3) 公園の賑わいを創出するための民間活力導入の制度やそれを活用した事例について、具体的に述べなさい。

((1) ~ (3) の課題から1題を選択)

5 建築職 A、建築職 B

- (1) 増加していく空き家を対象に、現在、全国で、様々な対策が行われています。本県でも、適正に管理されていない空き家が、周辺の住環境に悪影響を及ぼすことから、総合的な空き家対策を推進しています。
そこで、現状の空き家についての課題を考察し、その対策に必要な視点や取組の方向性について述べなさい。
- (2) 本県では、これまで高齢者や障害者を含むすべての県民がいきいきと生活できる福祉のまちづくりを推進してきました。こうした中、平成30(2018)年度に「ユニバーサル社会づくりの推進に関する条例」を制定し、ユニバーサル社会の実現に向けて新たな一歩を踏み出しています。
そこで、まちづくりの観点から、現状を踏まえ、まちのハードとして必要な機能やその整備方策、それを補完するソフトの取組について述べなさい。
- (3) 来年1月17日には阪神淡路大震災から25年を迎えることとなります。一方で、南海トラフ地震の今後30年以内発生確率が70~80%と言われており、建築物の耐震化は喫緊の課題であるものの、耐震化率は思うように進捗していません。
そこで、一戸建て住宅や分譲の共同住宅において、耐震改修が進まない要因を分析し、耐震改修を進めるための具体的なアイデアを述べなさい。

((1) ~ (3) の課題から1題を選択)

経験者採用試験 論文試験課題

6 機械職 A

- (1) 兵庫県では、設備課の電気・機械を専門とする技術職員と、営繕課の建築を専門とする技術職員が連携して県有施設を整備しており、設備課では、「環境に配慮した施設づくり」「人にやさしい施設づくり」「災害から暮らしを守る施設づくり」の三つを主要な施策として建築設備を整備しています。

兵庫県では、2030年度の事業完了を目指して県庁舎等再整備事業に着手しましたが、県庁舎の再整備にあたり、社会問題を三つの主要施策に分類して挙げ、それぞれの課題解決に向けた建築設備の整備方針について、あなたの考えを述べなさい。

- (2) 1998年6月の省エネ法の改正で、機器等のエネルギー消費効率基準の策定方法として「トップランナー制度」が導入され、現在32品目の機器や建材などが対象になっています。

そこで、トップランナー制度が導入された背景を述べ、特に建築設備に関連する下記の対象品目から1点以上選び、その品目のエネルギー消費効率に影響を与える技術的、構造的な特徴を述べた上で、兵庫県の省エネルギー施策にどのように活用していくべきか、あなたの考えを述べなさい。

(対象品目) ①エアコンディショナー、②ガス温水機器、③電気便座、④変圧器、
⑤ヒートポンプ給湯機、⑥交流電動機、⑦電球

- (3) 高度経済成長期に集中的に整備した公共建築物が、築後50年以上経過して老朽化する中、兵庫県では、大規模改修や建替にかかる費用を抑制するため、予防的な修繕を主体とした「計画修繕」に取り組んでいます。

特に、設備は種類や材質が多岐にわたる上、使用環境の違いで劣化進行状況が異なるため、修繕時期の配慮が必要です。

そこで、公共建築物での計画的な設備修繕の取り組み方について、下記の劣化類型と計画保全の考え方を踏まえ、あなたの考えを述べなさい。

(劣化類型)

- ① 物理的劣化：機器や構成部材が、腐食や摩耗など物理的な原因で劣化し、要求される機能、性能、安全性等の品質が保てない状態になっていること。
- ② 社会的劣化：社会的ニーズの変化や技術革新などで、もはやユーザーから要求される品質が保てない状態になっていること。
- ③ 経済的劣化：継続して使用するための保全・補修費や、性能や効率が低下して運転費等が高み、維持管理費用が改修費用を上回る状態になっていること。

((1)～(3)の課題から1題を選択)

経験者採用試験 論文試験課題

7 機械職B

- (1) 兵庫県では、設備課の電気・機械を専門とする技術職員と、営繕課の建築を専門とする技術職員が連携して県有施設を整備しており、設備課では、「環境に配慮した施設づくり」「人にやさしい施設づくり」「災害から暮らしを守る施設づくり」の三つを主要な施策として建築設備を整備しています。

兵庫県では、2030年度の事業完了を目指して県庁舎等再整備事業に着手しましたが、県庁舎の再整備にあたり、上記の三つの主要施策を踏まえ、建築設備が備えるべき性能や整備の方向性について、あなたの考えを述べなさい。

- (2) 1998年6月の省エネ法の改正で、機器等のエネルギー消費効率基準の策定方法として「トップランナー制度」が導入され、現在32品目の機器や建材などが対象になっています。

そこで、特に建築設備に関連する下記の対象品目から1点以上選び、その品目のエネルギー消費効率に影響を与える技術的、構造的な特徴を述べた上で、兵庫県の省エネルギー施策にどのように活用していくべきか、あなたの考えを述べなさい。

(対象品目) ①エアコンディショナー、②ガス温水機器、③電気便座、④変圧器、
⑤ヒートポンプ給湯機、⑥交流電動機、⑦電球

- (3) 高度経済成長期に集中的に整備した公共建築物が、築後50年以上経過して老朽化する中、兵庫県では、大規模改修や建替にかかる費用を抑制するため、予防的な修繕を主体とした「計画修繕」に取り組んでいます。

特に、設備は種類や材質が多岐にわたる上、使用環境の違いで劣化進行状況が異なるため、修繕時期の配慮が必要です。

そこで、公共建築物での計画的な設備修繕の進め方について、あなたの考えを述べなさい。

((1)～(3)の課題から1題を選択)

経験者採用試験 論文試験課題

8 電気職B

- (1) 兵庫県では、設備課の電気・機械を専門とする技術職員と、営繕課の建築を専門とする技術職員が連携して県有施設を整備しており、設備課では、「環境に配慮した施設づくり」「人にやさしい施設づくり」「災害から暮らしを守る施設づくり」の三つを主要な施策として建築設備を整備しています。

兵庫県では、2030年度の事業完了を目指して県庁舎等再整備事業に着手しましたが、県庁舎の再整備にあたり、上記の三つの主要施策を踏まえ、建築設備が備えるべき性能や整備の方向性について、あなたの考えを述べなさい。

- (2) 1998年6月の省エネ法の改正で、機器等のエネルギー消費効率基準の策定方法として「トップランナー制度」が導入され、現在32品目の機器や建材などが対象になっています。

そこで、特に建築設備に関連する下記の対象品目から1点以上選び、その品目のエネルギー消費効率に影響を与える技術的、構造的な特徴を述べた上で、兵庫県の省エネルギー施策にどのように活用していくべきか、あなたの考えを述べなさい。

(対象品目) ①エアコンディショナー、②ガス温水機器、③電気便座、④変圧器、
⑤ヒートポンプ給湯機、⑥交流電動機、⑦電球

- (3) 高度経済成長期に集中的に整備した公共建築物が、築後50年以上経過して老朽化する中、兵庫県では、大規模改修や建替にかかる費用を抑制するため、予防的な修繕を主体とした「計画修繕」に取り組んでいます。

特に、設備は種類や材質が多岐にわたる上、使用環境の違いで劣化進行状況が異なるため、修繕時期の配慮が必要です。

そこで、公共建築物での計画的な設備修繕の進め方について、あなたの考えを述べなさい。

((1)～(3)の課題から1題を選択)